

読む

2012
Jan

湘南

少しだけためになる海の話

海のゴミは
駆逐できるのか

ビーチに落ちているタバコの
フィルター。それはどこか
遠く離れた街中で、
あなたが道路脇の
排水口に捨てた
吸い殻かもしれません。



ビーチのゴミを拾う。すごく大切なことだけれど、目の前のゴミを拾うだけではこの問題は解決できないと皆が薄々気付いてる。そもそも湘南のゴミはどこから来て、どうすれば減るのか。ビーチクリーンの次のステップの話をさせてください。

——湘南ビジョン研究会代表 片山 清宏



私たち「湘南ビジョン研究会」は毎月1回、「湘南の海を考えるミニフォーラム」を開催しています。「読む湘南」ではフォーラムの内容を毎回フォローしていきます。

講師 公益財団法人
かながわ海岸美化財団事務局長

澤田 英樹氏

■相模湾沿岸にはどんなゴミが流れ着くのか

まずは「かながわ海岸美化財団」について説明します。1991年設立で、もう20歳になります。事業の中心は海岸のゴミ清掃で、担当地域は横須賀の走水海岸から湯河原までの約150キロの自然海岸です。費用は県と13の市町が50対50で折半して、私たちの方に委託されています。予算は当初、年間4億円ほどでしたが、最近は2億円を切るような非常に厳しい状態です。

では実際どんなゴミが出るのか説明しますと、ゴミの6割強は海藻なんですね。これに落ち葉や枯れ木など河川からのゴミを合わせると自然系のゴミが8割を占めます。残りの2割が人が出したゴミということになります。次に海藻以外のゴミの内訳はといいますと、河川からのゴミが7割近い。今年(2011年)7月から9月にかけて台風の影響で、川の河口はゴミで埋め尽くされました。それを処理するだけで1000万円近くかかったと思います。こうしたことを踏まえ財団ではこれまでの、海岸にゴミがあるから処理するという発想からゴミが流れ着かない者を目指したいという発想に変えました。

相模湾沿岸に流れ着くゴミの総量ですが、海藻を除く可燃物、不燃物は年間約2000トンでここ15年ほど横ばいです。つまりゴミの量は減っていないんです。しかし、海岸清掃の予算は半分になりました。来年度からは国からの財政支援の一部がなくなりますから、さらに清掃にかける時間を減らさざる得ません。住民からの苦情が増えるのではと恐れています。

その一方で、民間のビーチクリーンは年々増加しています。平成22年度は年間15万人に達し、これは15年前の約3倍です。私どもは清掃用具の貸し出しやゴミの受け入れという形で支援していますが、皆さん非常にきれいにやってくれており、これが職員の大きな励みになっています。



■パネルディスカッション

片山 澤田さんからお話があった通り、ゴミの量はここ20年間ほぼ変わっていない。それはこれからも永遠に毎年2億円かけて掃除をやっていくのかということになってしまふわけです。そこが今回の問題定義です。これをどう減らしていくのか、今後どのように対策していくのかを議論していきたいと思います。ではまず小島さんと古澤さん、自己紹介を兼ねてご自身の活動内容を教えてください。

パネラー 一般社団法人
J E A N事務局長・副代表理事

小島あずさ氏

ベビーグッズ等の企画販売会社を経て、
1991年クリーンアップ全国事務局を設立

小島 こんばんは。海のない武蔵野から来ました小島と申します。私は一般社団法人のJ E A Nという団体で活動しておりまして、1990年からボランティアの任意団体として活動しております。活動の柱はアメリカで始まった国際クリーンアップ、International coastal clean upといいまして、ゴミを拾うだけでなく全世界同じ基準でデータを取って現状を分析し、ゴミの発生の元を断つていこうというものです。日本への呼びかけと取りまとめの窓口をしております。22年間の活動で築いた全国のネットワークから出てくる意見を集約し、それを企業や政治の場にフィードバックして対策を立てさせるよう働きかけています。

2011年12月13日 第2回テーマ

湘南海岸ゴミ問題への挑戦

古澤 はじまして、古澤純一郎です。僕たちは江の島にタツノオトシゴを戻そうという活動をしています、海さくらという団体です。海はあの海、さくらはキャバクラの桜ちゃんから取りました。ウソです。何をやっているかというと、「ファンキーに楽しくゴミ拾い」というのをテーマにしていまして、2005年に始めました。花が描かれた袋でゴミを集めてゴミ捨て場をアートにしちゃったりとか、拾い集めたタバコのフィルターでカヌーをつくってそれで川下りしたりとか、代表自らファンキーにやってます。偽善者だとか言われることもあるんですけど、その価値観をぶっ壊してやろう、と。

パネラー

「海さくら」代表

広告代理店を経て古澤工業株式会社勤務。2005年に江の島・湘南をキレイにする活動を行う「海さくら」設立

古澤純一郎氏



古澤
純一郎



モルタル無数に散らばるタバコの低さを表している人々のタバコのフタ

をアートにしちゃったりとか、拾い集めたタバコのフィルターでカヌーをつくってそれで川下りしたりとか、代表自らファンキーにやってます。偽善者だとか言われることもあるんですけど、その価値観をぶっ壊してやろう、と。

■発生抑制

片山 ありがとうございました。今日はどうやったらゴミそのものを減らしていくか、というのを焦点にやっていきたいと思います。それを発生抑制といいます。最初の論点は海岸のゴミの7割は河川からやってくるという点。澤田さん、実際に

美化財団で海岸の清掃を担って

いますが、川の方の問題をどのようにお考えですか？

澤田 この前の台風では大木や車が流されました。川は水かさが増すとものすごい渦流になってすべてを持っていってしまう。そのためまだ私たちの方でも具体的な対策を考えついていません。

片山 小島さん、日本全国を巡られていますが、全国の取り組みの事例を含めてお話いただけますか。

小島 全国で河川の清掃は行われているのですが、それが海まで流れている、繋がっているという考え方まで至っているのは少ないと思います。山形県に最上川という、山形県の山から始まって県内ののみを通り日本海に注ぐという非常に珍しい大きな川があります。内陸部の上流

は農村地帯で、日本海に面した庄内はゴミがひどい状況でした。同じ県の人たちだけでも、上流の人たちはそういう関心が薄かった。そこで国土交通省の山形河川国道事務所というところと、山形の離島や海岸、川のゴミのことも一生懸命に取り組んでいる地域づくりのNPOが働きかけて、県と一緒に最上川のゴミマップというを作りました。それに先立ちまして、私たちの団体を含む県外の人間もそのボランティアに参加させてもらって、ゴミマップを使って、どこがどのくらいどのように汚れているか写真を撮るという作業をしました。ただ、やみくもに写真を撮っても比べられないで、同じやり方で同じ面積の中にどれくらいのごみがあるのか、それを科学的に評価できる指標を2年ほどかけて作成しました。そのデータをマップにおとして、全戸配布をしました。それは、自分の街ではこれくらいゴミが多いのかということだけではなく、またよそと比べてこれくらいか、来年はこれより減らそうとの啓発を狙ってやったものです。同じようなことは全国でなされているが、市民団体が主流となってやったものでは、山形の例がすごく良いです。

片山 古澤さんは川の上流からゴミが流れてくることに着眼されまして、実際に自分がゴミになって上流から川を下ってみようとのコンセプトでこれをなされました。カヌーは江の島でとれたゴミの象徴であるたばこのフィルターをもとに作られております。ここを含めて、自らゴミなられた感想をお聞かせください。

古澤 ゴミの古澤です。川からゴミが流れてくるということは小学生でもわかる単純で簡単なことですけど、忘れないで。上流はとてもきれいで、川底も見えるくらいでしたが、街が見え始めるくらい下るとだんだん汚く臭くなっていました。街の中からポイ捨てされたものが下水道を通って海へ出たり、大雨が降って町の全てをさらってくるのだなという実感しました。もし町の人たちがポイ捨てをやめようという心を持てば、美化財団さんの予算は200円くらいでいいのではないかと思えるぐらいにゴミが無くなる可能性がある、というすごく単純なことを伝えたい。

片山 1つの原因としましては、境川の上流までいって分かったのですけど、あれは戸塚の方から流れているんですよ。用は市をまたがっているんですね。横浜の方から流れてきて藤沢を抜けて最後に海にたどり着く。藤沢

だけがいくら取り組んでも限界があるということなのですが、川の上流にいるがために横浜の人間はあまり当事者意識がないようで、行政の区切りだとか縦割りの部分の影響で対策が立てにくいのかなと感じているのですけども。



ビーチクリーンに参加するキッズたち。古澤さんは「子供たちはそもそもゴミ拾いなどせず、海で遊んでいてほしい」と願う



海での暮らしを日々楽しむ方々をゲストに招く「海楽（かいらく）主義」。2回目は片瀬でウインドサーフィンのショップ「SYLPHIDE」を経営する脇田忠さんにお話をうかがいました。脇田さんはウインドサーファーであると同時に、日本を代表するビッグウェーバー、脇田貴之さんの父親でもあります。そんな脇田さんへのインタビューは意外な話から始まりました。

脇田忠さん

片瀬ウインドサーフィンショップ「SYLPHIDE」

「消波ブロックってあるでしょ？あちこちに波消しで入っているけど、あれ入れるとカニもエビも貝もみんな逃げちゃうんですよ。ブロックのセメントから灰汁（あく）が出るから。灰汁が抜けるのに30年かかります。江の島の堤防には今、伊勢エビがいますよ。なんでか分かりますか？東京オリンピックの時に入れた消波ブロックの灰汁が30年経って抜けたからです。ようやく生き物が住めるようになったんですね。だから片瀬漁港では真鶴の天然石を入れさせました。実はブロックより安いんですよ。6ヶ月でカニが戻って、のりが生えました。腰越も漁港広げましたけど、あの広げたところはアワビの宝庫だったんですよ。でもセメントの灰汁でほとんど逃げてしまいました」

脇田さんは「シルフィード」のかたわら、片瀬漁港の運営に携わるとともに藤沢市観光協会理事、湘南藤沢マリン連盟専務理事を務めるなど、片瀬ネットワークの中心人物だ。

「放射線ね、片瀬漁港も上がった魚を毎日測って今日は何ベクレルですと出せばいいんですよ。高い数値が出ちゃうとまずいのでやりたがらないんだよなあ。サーファーだって知りたいでしょ？私は自分で測定器を買って測っていますよ。湘南の海は今のところ異常な数値は出ていない。でもそれならそれでちゃんと行政が情報を出すべきです。ダメならダメで入らない方がいいんだから。国は安全なものは安全、ダメなものはダメとはっきりすればいい」



(息子の)貴之は中学でサーフィンを始めたのかな？最初はウインド教えたけど道具の用意が面倒だったみたい(笑)

【前ページから続く】 小島 韓国に漢江（ハンガン）という大きな川があるのですが、河口は仁川（インチョン）国際空港がある仁川で、そこでは上流から流れてくる大量のごみの処理が非常に大変だったのですが、その上流にはソウルと京畿道（キョンギド）という大規模人口の街があるんですよ。上から流れてくるものを仁川のみでお金を出して処理するのはおかしいということで、ソウルと京畿道に語りかけて、3つそれぞれの行政で協議をして調査をすることになった。その結果、上流から2割3割5割といった順にお金を拠出することや、市民に川のクリーンアップを呼びかけるなどが実現した。それがすごく上手くいっていまして、これは自治体発で行われたわけですが、韓国の国土交通省や環境省が高く評価して、他の河川でもこの活動を導入している最中です。

■製造者責任

片山 論点の2つ目に移りたいと思います。流れ着く様々なゴミ、その責任の一端が、それらを製造した人たちにもあるのではないか。これを製造者責任と呼ぶのですが、そういうものをなるべく出さないようにする、また出ても自然に分解されるようにするなど、ゴミが排出される前の段階から何とかしようという論点でいきたいと思います。小島さんは活動の中で実際に改善に導いた例があるそうですが？

小島 漁業用の発泡スチロールフロートが一つの例なのですけれど、瀬戸内海や鹿児島、九州沿岸などの養殖漁業が盛んなところ、中国、台湾、韓国などでも使われています。いかだにくっつけて浮かべるウキなのですが、発泡スチロールがほぼむき出しで使用されており、ビーズの間に水がしみこむことでほとんど浮かなくなってしまいます。すると交換する必要が出てきますが、1つのいかだに何十個もついており、1個を廃棄するのに300円から500円かかるのは漁業者さんには負担が大きく、自分の家の畑の横だとか、船の周りの漁港に積んでおくなどで管理もされず、放置されています。それが劣化してバラバラの破片となって飛んでいくことで様々な問題を生んでいます。15年前のことなのですが、調査の中でこれが分かって来て、水産庁、環境省、プラスティッ



なび一
チに散
らばつ
た、原
型をと
どめ

ビーチや港の問題についての難しい顔が緩むのは、やはり息子、貴之さんの話をする時だ。貴之さんは世界最高峰のビッグウェイブコンテスト「In Memory of Eddie Aikau」に3年連続で招待されている日本屈指のパイプライナー。今年も現在、2月29日までのウェイティング期間の真っ最中である。

「貴之は中学でサーフィン始めたのかな？最初はウインドを教えたけど道具の用意が面倒だったみたい（笑）。スケボーでレールの使い方、ドライブターンの練習をしていましたね。湘南学園高校を卒業してプロ

になるというから、プロというのは自分でお金を稼ぐということ、だから私は出さないよと言いました。大学に行くのであれば出すよ、と。それでアメリカのサンディエゴ・ユニバーシティに入ったので、生活費だけ送ってやりました。2年くらいいたのかな？その後、ハワイに行くようになった。40フィートなんていうから7階建てのマンションくらいの波にも乗っていますよ。結構、ヘルメットに助けられているみたいですね。09年の「Eddie」は現地には行かず、日本でネットのライブ中継を見ていきました。孫たちはお兄ちゃんはもう中学で、下の女の子は小学生。2人ともハワイのローカル・コンテストで勝ったりしているみたいですね」

脇田さんは生まれも育ちも片瀬。子供時代の忘れられない記憶があるという。

「我が家が旅館をやっていたので、米兵の水兵さんがたまに泊まりに来ました。それで砂糖をね、置いていくんですよ。物のない時代でしたからね、よその家はみんなサッカリンだけど、うちだけ砂糖でした。うまかったなあ」

夕日に染まる片瀬漁港



が、いかだに吊り下げて使用するポリエチレン製のパイプが悪天候や収穫時に壊れて流れてしまう現実があります。以前使われていた竹ならばやがて腐って沈むのですが、便利なプラスティックになったため、ハワイまで流れミッドウェーの海鳥がこれを食べてしまっていることがわかっています。オアフやハワイ島の海岸では日本名物のゴミとして有名になってしまっている。何とかしなくてはと思い、我々が回収したパイプは広島の漁協に届けて再利用していただいています。また漂着が多い愛媛や山口では、一般的ボランティアがこれを回収すると、新品のものと同じ値段で漁協が買い取ってくれます。

古澤 いい仕組みですね。漁師はなるべく落とさないよう心掛けるでしょうし、ボランティアの方にも拾うインセンティブになります。こういう仕組みを古澤さんはどう思われますか？

古澤 メーカーや生産者が出すものに関しては明確な解決策があると思うんですね。しかし、僕らが何とかしたいという気持ちと、上の行政との気持ちに差がある。この温度差は、どげんかせんといかんと思っています。ビーチクリーンをしていると注射器もよく落ちています。子供がいる私としてはそれを彼らが踏むのではと危惧しています。皆さん不思議だと思いませんか？これほど危険なゴミが何年も前から出続けているのに、それを放っておいていいのかと思うんですよ。またまたエッチな注射器も出てくるんですけどね。注射器というのはどこから來てるんでしょうか？

◆**In Memory of Eddie Aikau** 通称「The Eddie」。ハワイ・オアフ島ノースショアのワイマアで1日だけ開催されるビッグウェイブコンテスト。人命救助のためこの世を去った伝説のウォーターマン、エディ・アイカウ氏を偲び1986年に始まった。20フィートを越える波がコンスタントにブレイクしなければ開催されず、過去26回で実際にがブレイクする日、「The Day」を待っている。

片瀬が抱える様々な改善すべき点を指摘する脇田さんだが、海を取り巻く環境は決して悪い方ばかりに転がっているのではないと言います。「海はずいぶんきれいになりましたよ。昭和40年頃と比べるとね。あの頃が一番汚かったですから」。片瀬の海とともに暮らし、これからもその変化を見続けていくであろう脇田さん。インタビューが飲みかつ食らい、話す脇田さんがゆっくりコーヒーを飲むという風変わりな取材にお付き合いください、ありがとうございました。

ク業界、それと特にこれが多かった広島県の水産会社にお声をおかげしまして、会議をしました。そこで、碎けにくい材質への転換や、せめてカバーをしようとか、材質の転換にかかる費用を補助されてはいかがかと提案をして、その後バレーボールやサッカーのボールを作っているモルテンという会社が碎けにくいフロートを商品化して今、売られています。水産庁でも今、使い終わって古くなったフロートをリサイクルして回収する事業が進んでいます。

もう1つ、同じ牡蠣養殖に関連するもので

小島 実は注射器は日本中どこに行っても必ずあるんですよ。

古澤 それは同じ注射器なんですか？

小島 太平洋側の南西の方はインシュリン用の注射器とかで、あと覚醒剤用に使われているものもあると思います。外国由来の不法投棄もあって、沖縄では点滴用のチューブや血液が入った試験管まで発見されています。国内に関しては医療廃棄物問題研究会というのが古くからあって、そこの方に教えてもらったりとこころ、こうした注射器は不法投棄だそうです。本来、病院は使い終わったものを感染症廃棄物処理の資格を持った業者にお金を払って処分してもらいます。しかし、医療品はすごく取引競争が激しく、自分のところの医薬品を購入してもらう代わりに、処理に手間とお金がかかる廃棄物を引き取る業者さんが多いそうです。ほとんどの業者さんはきちんと処理していると思いたいですが、営業の車に乗せて山の中などに捨ててしまうこともあります。

10年以上前、湘南海岸にものすごく大量に流れ着いたことがあったんですよ。その時は行政と警察が調べたら、相模湖の中に不法投棄された廃棄物が沈んでいたんですね。悪いこととわかってやっているので、なかなか犯人は見つからないんですよ。

片山 けれど、病院ごとに廃棄業者が決まっているなら、落ちているものをいろいろ調べてどこの病院から出たものか分かれば、ある程度追っていくことができるのではないかですか？

小島 浜松ではそれで摘発されました。しかし、痕跡を消してあることが多くなかなか難しいです。その上、現行犯逮捕でないとダメらしく、ポイ捨て禁止条例などと同じく、対策はあるのだがあまり現実的ではないようです。

片山 行政が取り締まる限界が見えてきたように思えま…

古澤 僕はそうは思わないですね。先ほどおっしゃられたように、注射器から追っていけば見つかるはずでしょう。指紋すら発見できる今の警察ができないとは思えません。僕らが拾う注射器は、キャップがオレンジ色の細い物でいつも同じものなんです。僕らの手でそれを持って処理業者を巡ることで無償で処理してくれるようになるかも知れないし、僕らの動きで不法投棄そのものを止めることができるかも知れないのですけれど、しかしそれ以前に子供たちの足に刺さってしまったならそれは結構悲惨ですよ。海の家の釘の問題もそうですけど、こういうものは僕たちの海のためにならない問題だと思っています。

■終わりに

片山 お時間になりました。パネリストの方々に最後に一言ずついただきたいと思います。

澤田 私たちの使命は、たとえ予算が減らされても海岸のゴミを清掃していくことです。そこでやはりこれからも、ボランティアの皆様の協力をよろしくお願ひしたい。私の夢としましては、何億円も必要とする私たちのような財団が必要となる時代が到来してくれることです。

小島 90年に参加した当社から、私たちのような全ての団体がこの世から解散することを目標にやってきました。しかし発足から20年経った今でもその兆しは見えません。しかしその希望は捨てることなく頑張っていきたい。震災の影響で1銭もお金が回ってこないので、経営が非常に苦しいです。当面は、潰れてしまわぬことを目標に頑張ります。

古澤 1月21日に、ルーターズさんとゴミ拾いをやりますので、よかつたらこれをきっかけにトゥギャザーしましょう。僕らは小さな団体ですけど、不可能と思われていること全てを可能だと思っていますので、始終ふざけているかのように見えているかも知れませんが、半分ふざけて半分真剣にファンキーに取り組んでおりますので、よろしくお願ひいたします。トゥギャザーしましょう。

片山 私が今回で一番考えたことは、ボランティアなどの善意を持って頑張っている人が馬鹿を見て、自分の利益などしか考えない人が得をしている状況についてです。これは是正されなくてはならない。そして古澤さんがおっしゃったとおり、ポイ捨てや注射の不法投棄問題など、やるべきことをやっていくべきだと思います。民間が声を上げるとともに、行政の側も責任感を持つ必要があると感じました。以上を持ちまして、パネルディスカッションを終えたいと思います。長時間にわたりありがとうございました。

(左から)湘南ビジョン研究会代表・片山清宏、かながわ海岸美化財団・澤田事務局長、JEAN・小島事務局長、副代表理事、海さくら・古澤代表



私たち「湘南ビジョン研究会」は、地元湘南を今以上に活気のある地域へ！という意思の元に集まった勉強会です。10年後の湘南地域のまちづくりビジョン「湘南都市構想2022」の作成と、ビーチの国際環境基準「ブルーフラッグ」の認証取得を目指に掲げて活動しています。研究会メンバー随時募集中です。

2001年から27のビーチが取得 南アフリカ



海外のブルーフラッグ事例

フランスで生まれ、ヨーロッパ各地に広がったブルーフラッグ。その後、ヨーロッパ圏外で初めて取得したのが南アフリカだ。2001年に3つのビーチが取得して以来、27のビーチが取得したほか、現在も準備中のビーチが14ヶ所控えている。

南アフリカでブルーフラッグが成功した大

きな理由は、地方自治体の力強い協力があったから。観光客に世界水準のビーチをアピールするため、自然環境の管理をうまく行い、安全できれいな施設を整備した。また環境教育の場としても活用。雇用を確保することで地域の人も楽しめるビーチを目指した。もちろん地域住民の協力なくして、これらの目標を達成することはできなかった。南アフリカのビーチに海外（主にヨーロッパ）から観光客を呼ぶ大きな旗印としてブルーフラッグが1つの指針となっている。また、それは地域住民にとっても誇りであり、ビーチに対する安心は国内観光客にとってもビーチを選ぶ基準になっている。そして海岸沿いの自治体や関係者のブルーフラッグへの投資は、それ以上の経済効果を生んでいる。



ケープタウン近郊の「ビキニビーチ」もブルーフラッグを取得したビーチの1つ

沿岸域総合管理 「海洋基本法」

海の法律を
学ぼう

例えば藤沢なら
藤沢らしい海との関わり方を
自分たちで見つけましょうという考え方

前回お話し
した「海洋基本法」
の基本施策の1つ「沿
岸域総合管理」。今回
はこれがどういった問
題点に対して役立てら
れるべきなのかを説
明します。

沿岸域の環境の悪化、生物の生産性の低下、関係団体との利害衝突などは水産業、観光業をはじめとする地域の産業にダメージを与え、地域の活力、生活環境等の衰えに直結します。そこで沿岸域を管轄する地方公共団体には、漁業、環境、観光、防災、地域振興等の横断的な地域計画をつくり、その実現に向けて支援することが求められます。また、一自治体だけではなく必要に応じて国や他の地方公共団体との連携も欠かせません。

海洋基本法は、第9条（地方公共団体の責務）において、「地方公共団体は、基本理念にのっとり、海洋に関し、国との適切な役割分担を踏まえて、その地方公共団体の区域の自然的・社会的条件に応じた施策を策定し、及び実施する責務を有する。」と規定しています。例えば沖縄県八重山郡竹富町では平成23年3月、地方公共団体として初めて海洋基本計画を策定しました。「日本最南端の町（ぱいぬ島々）から海洋の邦日本へ」とのサブタイトルのこの計画は、漂着ゴミへの対応、生活保全航路の確保、津波・台風など災害への対策など様々な課題を抱える町が、国主導ではなく離島としての独自の取組を行うことを宣言しており、とても注目すべきものです。

これから自治体が、より決め細やかな地域経営を行うための重要な政策ツールとして、沿岸域総合管理の仕組みが活用されることが望まれます。

広告募集

「読む湘南」は皆様のサポートを必要としています。より良いものを創るために、「広告掲載」という形でご支援いただけないでしょうか。全面から1/8サイズまで、用途に応じて変形も掲載可能です。「協賛」として活動をご賛同いただける方も募集します。

個人、企業は問いません。ロゴ等の使用もOKです。下記アドレスまでメールにてお問い合わせ下さい。よろしくお願いします。また各月のミニフォーラムへの参加申し込みも同アドレスにご連絡下さい。

shonan_vision@hotmail.co.jp

担当：窪田

mott



18:00～29:00 THU～ZZ
0466★77★9763



◆ 美味しい湘南

鉄板焼き&お好み焼きバー 藤沢 TECO 7

オーナーの七木田さんはサー
フィンで1年中真っ黒

藤沢駅南口ターミナルから歩いてすぐのビル4

階に店を構える鉄板焼き&お好み焼きBar「TECO 7」。オーナー・七木田誠さん(44)の底抜けに明るいキャラクターと、フワフワのお好み焼きが毎夜多くの人を集め藤沢きっての人気店だ。七木田さんは鎌倉市役所に20年務めた元公務員であり、横浜商業で1983年、甲子園春夏準優勝の元高校球児、そして現役バリバリのサーファーでもある。

「観光課の海水浴場担当とかやってた。海が好きだから楽しかったよ。仕事しながら日本バーテンダースクールに通つてお酒の勉強をした。辞めてから大阪の鉄板焼きの学校にも通ったね。飲食の素人だったからマニュアルを知りたくてチェーン店でも働いた。年齢が半分以下の高校生に仕事教わったりしてね」

野球漬けだった10代の経験が今の仕事に役立っているという。

「中学でいろいろな高校からスカウトが来て、Y高に入った頃は自分に凄く自信があった。プロにもいかれるじゃないかな~なんて思ってたよ、正直(笑)。でもさ、渡辺久信(前橋工)とか水野雄仁(池田)の球なんか、かすりもしない。でもそいつらドラフト1位でプロいったらオープン戦でパカス力打たれてる(笑)。上には上がいるなーって思ったよ。お好み焼きだって自分より美味しいもの焼く人がいるって思うから調子なんかこけないよ」

プロということは、つまり「お客様の目線で考える」ことだという。

「ウチの店のイス、カッコイイと思う?思わないでしょ。これよりカッコイイのもあったんだよ。グラスもね。でも、これが座りやすいから。座っちゃえばデザインはあまり関係ないじゃん?お客様にとってどっちがいいかって考えたら、もうそれ以外の答えなんかない。グラスだって、背の高いカッコイイもあるんだよ。でも飲んで楽しくなってちょっと騒いた時に、倒れやすいグラスより重心の低いヤツのがいいだろって」

じっくり時間をかけて焼く自慢のお好み焼きは、たっぷりの長芋を使っている。表面の口当たりは驚くほど軽く、カリッというよりサクッ。アツアツの中身が口の中でフワリとほどける感覚は、丁寧な仕事の賜物だ。

「経験が少ないのでこそ無茶苦茶いろんなこと試したよ。配合から混ぜ方から焼き時間も。今でもちょっとずつ変わってるんじゃない?」

もう1つの看板メニュー、焼きそばも茹でたての麺にこだわる。

「だってその方が美味しいから。そりゃ蒸し麺鐵板乗っけて、シャーって水かけたら楽だよ。でもオレが客だったらそんなもん食いたくねーし。だから注文ごとに麺を茹でるのは当たり前のこと」

七木田さん自身、お酒を飲むのが大好きだという。そのためか、一品料理もついビールのペースが上がるものばかりだ。

「いやー、酒の話になっちゃうとさ、オレ飲むと本当に楽しくなっちゃうんだよ。だから仕事終わって近くのお店に飲みに行くと、つい酔っぱらっちゃうんだよな。いや、シラフの時は今日みたいに真面目な話もできるんだぜ。でも酔うとやっぱりフロッキー!とか叫んじゃうんだよな。ごめんなー」

飛びきりの豚玉を食べているのに、来た理由は七木田さんに会うため——なぜかそんな気にさせられる不思議な鉄板焼きの店、TECO 7。胃も心も満たされたい方におススメです!

そりや蒸し麺鐵板に乗っけて、シャーって水かけたら楽だよ。でもオレが客だったらそんなもん食いたくねーし。



営業時間	(平日) 17:30~25:00 (休前日) ~28:00、月曜
藤沢市南藤沢20-4	魚万新館ビル4F 0466-27-7328 http://teco7.jp

お店の入り口はエレベーターで上がった4階

